

(様式1)

2026年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 062	提案機関名 公益財団法人 相模湾水産振興事業団
<b>要望問題名</b> 相模湾西部における磯焼け対策について	
<b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 ○ 相模湾西部の岩礁地帯では、アワビ、サザエ等が刺網、素潜りで漁獲されている。 ○ 岩礁域のアワビ、サザエの水揚げは、沿岸漁業者にとって定置網、シラス船曳網と並び重要な収入源として期待され、当事業団でも種苗の放流を継続的に実施している。 ○ しかし、アワビ、サザエ等の餌となる岩礁に生育するカジメ等が、アイゴなどの食害により消失する現象(磯焼け)が、近年相模湾西部においても進み、アワビ、サザエ等の漁獲の減少となっている。また、当事業団が実施するサザエ・アワビの種苗放流場所についても限られた場所への放流となっている。 ○ 相模湾西部において消失したカジメが、葉山など相模湾東部や城ヶ島の海域では繁茂していることから、環境要因の調査分析を要望する。 ○ また、カジメ以外の海藻類(紅藻類等)の減少も見られることからこれらの海藻類の再生試験をおこなうとともに、温暖化や黒潮蛇行により環境の変化した相模湾西部と類似した海域において生息する海藻類を、当海域へ移植する調査研究についても要望する。 ○ 当事業団では、令和2年度より相模湾試験場へ藻場再生試験を依頼し多年生海藻(カジメ)の養殖技術を開発し、現在江ノ浦沖において種糸による養殖を実施し、順調に生育しており、生育中の食害を防ぐための対策について技術開発を引き続き要望する。 ○ また、最近カジメ養殖に必要な栄養塩の供給について、徳島県では、藻類への施肥技術の開発により安定的な 栄養塩の供給が行われる試験が実施され、一定の効果がみられていることから、今後施肥技術の確立で、生産量の増大を図っている。また、藻類養殖により二酸化炭素を固定するブルーカーボンの推進で、温暖化の抑制につながることから、神奈川県においても当該技術開発を要望する。	
<b>解決希望年限</b>	① 1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内
<b>対応を希望する研究機関名</b>	① 農業技術センター ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター ④自然環境保全センター
<b>備考</b>	

<b>回答機関名</b>	水産技術センター	<b>担当部所</b>	企画研究部、相模湾試験場
<b>対応区分</b>	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可 <input type="checkbox"/>		
<b>試験研究課題名</b> (①、②、④の場合) 藻場再生技術高度化試験、シーズ探求型研究推進事業、相模湾の漁場環境再生試験			
<b>対応の内容等</b> わずか半年で成熟するカジメの群落(以後「早熟カジメ」という。)を相模湾内で発見し、これから遊走子(種のようなもの)を採取して培養に成功しました。また、施設内や天然海域において培養した株の早熟性も確認できました。早熟カジメは、すみやかに成熟し、食害や波浪で失われる前に次の世代を残す特徴があるため、磯焼けした海域にうまく適応したカジメと考えられます。現在、蓄養水面においてカジメの養成手法や植食魚類からの食害防除方法の開発を実施しております。 磯焼け海域における施肥については、他県海域での事例等を調査し、効果が見込めるものについては実証試験をすることも含めて検討を行います。なお、令和7年度以降、相模湾沿岸の各海域の藻場造成箇所等での栄養塩計測を実施し、栄養塩の状態と磯焼けの関連について検討を行う予定です。 今後も養成中のカジメの食害防除を図りながら磯焼け対策の切り札として、早熟カジメの増殖技術			

開発を進めていきます。また、カジメ以外の海藻の培養・育成についても技術開発に取り組んでいきます。

**解決予定年限**

① 1年以内 ② 2～3年以内 ③ 4～5年以内  ④ 5～10年以内

**備考**